

# アウトリーチ活動報告書

医療法人社団 慶友会 吉田病院  
副院長／臨床研究センター 所長  
吉田 遼平

## 【活動概要】

第 20 回 慶友会グループ 医学講演会

『緩和ケアに正解はありますか？』 ～その人らしさを支える医療のあり方を考える～

日時：2025 年 11 月 16 日（日）14:00-16:00

場所：旭川市大雪クリスタルホール 国際会議場

対象：一般市民および医療従事者、256 名

本講演会は、緩和ケアの本質について、一般市民および医療従事者の皆さんとともに考える場を設けたいという思いから企画しました。当院は旭川市内で唯一の緩和ケア病棟を有する民間病院であり、がんが国民病といわれる現代において、緩和医療を通じた地域貢献を使命として取り組んでいます。今回、地域住民の皆さんに緩和ケアへの正しい知識と理解を深めていただくことを目的に、医学講演会を開催しました。

当日は 256 名の方にご参加いただき、緩和ケアへの関心の高さがうかがえました。私は座長として全体の進行を担当し、講演が分かりやすく伝わるよう心がけました。

講演は一般講演と特別講演の 2 部構成で行いました。はじめに、JA 北海道厚生連 旭川厚生病院の山口郁恵認定看護師より「自分らしく生きるために ～もっと身近に緩和ケアを！～」というテーマでお話しいただきました。患者さんやご家族の思いに寄り添う現場ならではの視点が語られ、参加された皆さんが深くうなずきながら耳を傾けていました。

続いて、医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院 名誉院長／NPO 法人ホスピスのこころ研究所所長の前野宏先生より、「ホスピスのこころを究める ―日本のホスピス緩和ケア 50 年が築きあげたもの―」と題してお話しいただきました。緩和ケアの歩みと本質に迫る内容で、参加者の皆さんが一つひとつの言葉に真剣に耳を傾け、医療や人生について思いを巡らせている様子が見受けられました。

講演終了後には、「緩和ケアについて学ぶことができた」「患者さんやご家族の声を聞く大切さを実感した」「緩和ケアを生きる場と捉えることで、前向きに生きられると思った」などの感想が寄せられました。また、「緩和ケア病棟を続けてほしい」「地域への情報発信を継続してほしい」といった声もあり、地域医療への期待を感じました。

今回、座長として参加者の皆さんと緩和ケアの本質について考える時間を共有できたことは、私にとっても有意義な経験となりました。今後も、地域とともに歩む医療を大切にし、緩和ケアの質向上に向けた取り組みを続けていきたいと思っています。